

令和6年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	四季成り性いちご品種「夏のしずく」の夏秋どり栽培における最適な栽植距離
【要約】四季成り性いちご品種「夏のしずく」の夏秋どり栽培では、栽植距離を株間 30cm 1 条植えとすることで、単収で 11～16%の増収効果が得られ、葉かき・ランナー取りの作業時間が 36%削減可能となる。	

1 背景とねらい

いちごの夏秋どり栽培は、国内産いちごの出荷量が極端に少ない時期に出荷できるため、高単価での販売が期待できる作型である。近年、東北農業研究センター等との共同研究により開発された夏秋どり栽培向け多収性品種「夏のしずく」（令和6年11月27日品種登録）は、これまでの栽培試験で、芽数が増えやすく大株となるため疎植が適していると考えられるが、具体的な検討はされていない。そこで、「夏のしずく」における最適な栽植距離について明らかにする。

2 内容

- (1) 四季成り性いちご品種「夏のしずく」を用いた夏秋どり栽培において、栽植距離を株間 30cm 1 条植えとすることで、株間 20cm 1 条植えで栽培した場合よりも芽数が増加し、単収で 11～16%増収となる（図1～2、表1）。
- (2) 株間 30cm 1 条植えで栽培した場合、株間 20 cm 1 条植えと比較して葉かき・ランナー取りの作業時間が 36%削減可能となり、雇用労働費の削減が期待できる（表2）。

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 農業普及員、J A 営農指導員
- (2) 期待する活用効果 いちご夏秋どり栽培の単収向上及び管理作業の省力化による収益性向上

4 留意事項

- (1) 令和4年は高設ダブルベンチ、令和5年は高設シングルベンチを用いて試験を行ったため、年によって 10a 当たりの栽植本数が異なる（表1）。
- (2) 「夏のしずく」は「なつあかり」に比べて水分要求量が大きい傾向がある。
- (3) 株間 27.5 cm 2 条植え区については、10a 当たり収量は多くなるが、過密となり管理作業が増加する（表2）ほか、育苗に係る費用・労力や本圃での防除作業も多くなる。
- (4) 本試験は、外部資金課題において実施し、他の栽培法については他参画機関が試験を行った。なお、全体の成果については、手引書として公開予定である。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
（R4-07）いちごの夏秋どり栽培における安定生産技術の開発[R4～R6/独法等委託]
外部資金課題名：戦略的スマート農業技術等の開発・改良
- (2) 参考資料及び文献等
 - ア 農研機構 成果情報（2020）「多収性の夏秋どり栽培向け四季成り性イチゴ品種「夏のしずく」」
 - イ 農研機構 パンフレット（2022）「四季成り性イチゴ「夏のしずく」」
 - ウ （R4-普-09）夏秋どり栽培向け四季成り性いちご品種「夏のしずく」
 - エ 五十嵐ら（2024）「いちご夏秋どり栽培における「夏のしずく」の栽植距離の検討」（ポスター発表：園学令6東北支部，39-40）

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

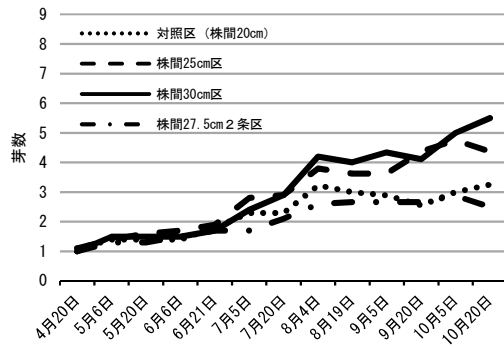


図1 芽数の推移（R4）

注）各区 10 株の平均

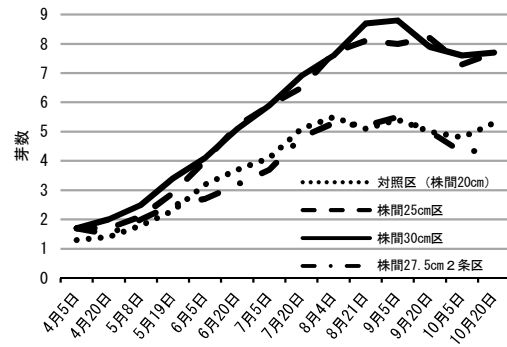


図2 芽数の推移（R5）

注）各区 10 株の平均

表1 株当たり商品果収量

試験区	年度	月別商品果収量(g/株)								果数 (個/株)	栽植密度 (本/10a)	単収 (t/10a)	対照区 対比 (%)	商品果率 (果重、%)
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計					
株間25cm 1条植え区	R4	0.0	5.3	288.3	309.9	47.9	120.1	150.9	922.3	93.8	5,333	4.9	111	79
	R5	8.8	214.5	362.0	301.2	23.0	23.4	73.1	1006.0	99.3	4,000	4.0	108	66
株間30cm 1条植え区	R4	8.9	0.0	251.4	405.5	73.0	149.8	210.9	1099.4	105.3	4,444	4.9	111	83
	R5	0.0	253.2	471.7	370.6	96.1	35.6	68.8	1296.0	128.1	3,333	4.3	116	69
株間27.5cm 2条植え区	R4	0.0	9.4	208.0	171.1	29.6	43.9	75.2	537.2	54.9	9,697	5.2	118	81
	R5	7.8	158.2	254.6	164.5	10.5	18.7	34.4	648.7	60.3	7,272	4.7	127	66
株間20cm 1条植え区 (対照)	R4	0.0	16.4	298.1	182.2	43.8	53.6	67.8	661.9	65.3	6,667	4.4	-	81
	R5	4.0	211.6	220.2	231.0	17.8	13.5	44.3	742.3	72.9	5,000	3.7	-	65

注1) 商品果は6g以上でAB品を含む

注2) R5年の対照区は15株、その他の区は10株の平均

表2 葉かき・ランナー摘除に要する作業時間（R5）

試験区	1株あたり秒数	年間作業時間	栽植本数	対照区 対比	雇用労働費
	(s)	(h/10a)	(株/10a)	(%)	(千円)
株間25cm 1条植え区	44.5	791	4,000	74	753.1
株間30cm 1条植え区	45.9	679.4	3,333	64	646.8
株間27.5cm 2条植え区	39.6	1280.8	7,272	120	1219.3
株間20cm 1条植え区 (対照)	47.9	1064.6	5,000	-	1013.5

注1) 各区21～25株、4回調査の平均

注2) 年間作業回数16回（4月～11月）と想定

注3) 労働費の単価は岩手県の最低賃金952円/h（令和6年度）で計算

耕種概要

【育苗管理】

8月中旬採苗、挿し苗、10.5cmポット育苗。

【栽植様式】

R4：うね間 150 cm のダブルベンチ。

R5：うね間 100 cm のシングルベンチ。

不織布ハンモック栽培槽、ヤシ殻培地。

【栽培管理】

定植日：R4.3.17、R5.3.13。

芽数放任、摘花及び摘花房なし。

施肥はタンクミックス F&B を用い、

給液 EC0.3～0.45 で管理。

クラウン温度制御、電照なし。

【担当】園芸技術研究部 南部園芸研究室